



DWH

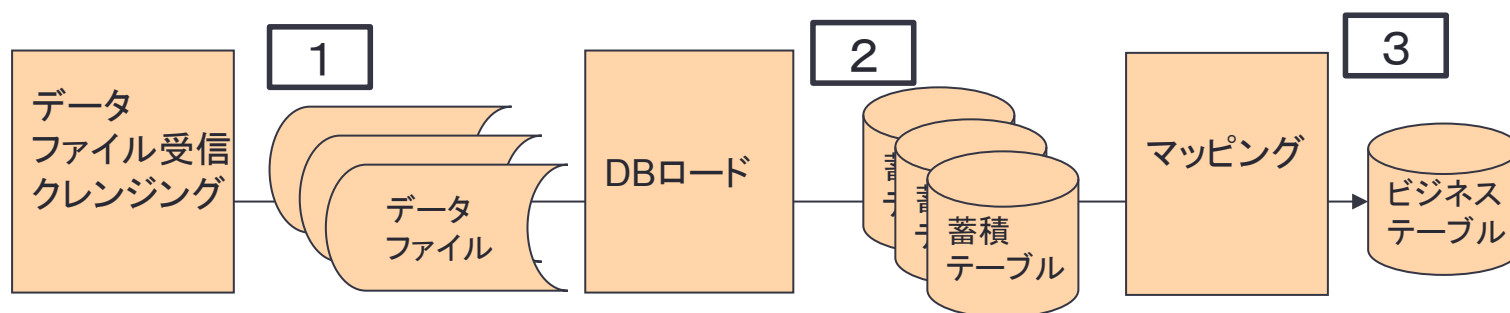
DWHとは？

DWHとは、Data WareHouse(データウェアハウス)の略称で時系列に蓄積された大量業務データの中から、各項目間の関連性を分析するシステムのことです。業務上の問題を洗い出し、それを改善するなど、経営に有用な情報を引き出す場合に活用します。

たとえば店の販売データから「祭日の晴れた日はサンドウィッチよりもおむすびの方が多く売れる」など単純集計では把握できなかった各要素間の関連を見つけ出すことによって、ターゲットをより明確にするなどマーケティング活動に役立てています。

DWHシステムの流れ

- 実際のDWHシステムの流れは以下のような例となります。



1. 取引データ等のファイルを受信し、必要に応じて不要な情報を削ぎ落とす。
2. 受信したデータファイルをデータベースに取り込む。
3. データの格納された各種蓄積テーブルを関連性にそってマッピングを行いマーケティングに必要な情報をビジネステーブルにまとめる。

DWHシステム構築の留意点

実際にDWHシステムを構築する場合は
以下事柄について留意が必要です。

1. 扱うデータ量が膨大になること

分析に必要となるデータは顧客数以上となり数億に及ぶこととなります。その際に大事になるのがデータベースに取り込むまたはマッピングを行う時の処理時間で
時間短縮の為の処理方法やチューニングが必須となります。

2. マーケティング戦略は流動的であること

マーケティングの戦略が変われば分析方法も変わります。
また会社の統廃合があればその際も分析方法の見直しが必要になり改修が発生します。

その他1

ここからはDWH関連として2つ情報を記載します。

1. データマイニング

DWHに似たものでデータマイニングというものもあります。

こちらは一見なんの関係もなさそうなデータを

解析しその中に潜む項目間の相関関係や

パターンを探し出す技術です。

解析者の解析を元にSAS社「エンタープライズ」等の

データマイニングツールを使い、解析結果を可視化し

未来予測に役立てたりします。

その他2

2. データマート

データマートとはDWHに保存されたデータの中から、部門や個人の使用目的に応じて特定のデータを切り出して整理し直し、別のデータベースに格納したものです。データ分析を行うユーザーごとに構築された、データ分析専用のデータベースとなり、前項であげたデータマイニングを効率的に行う元データになります。また、処理特性の異なる要求がデータウェアハウスに集中するのを避ける目的でも作成され、データウェアハウスサーバとは別にデータマート専用のサーバを設置することが多いです。